

獨協医学会

会 長 寺 野 彰 (獨協医科大学学長)

運営委員会委員

平田 幸一*	秋山 一文**	奥田 泰久**	石光 俊彦	入江 嘉仁
植木 敬介	上田 善彦	内田 幸介	遠藤美根子	大平 修二
小端 哲二	榊原 伸一	佐々木忠昭	篠田 元扶	杉田 憲一
千種 雄一	中元 隆明	野上 謙一	旗持 淳	服部 良之
春名 眞一	深澤 一雄	本田 幹彦	緑川由紀夫	

*委員長 **副委員長

Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

小端 哲二*	石光 俊彦**	上田 善彦	内田 幸介	遠藤美根子
杉田 憲一	千種 雄一	中元 隆明	服部 良之	春名 眞一

*委員長 **副委員長

編集事務員

鯉沼 行子

編集後記

Dokkyo Journal of Medical Sciences/獨協医学会雑誌第35巻1号をお届けします。本号には英文原著3編、和文3編、症例報告4編、学位申請論文14編と基礎と臨床の両者において盛りだくさんであります。この場をお借りして、御尽力戴きました先生方に心よりお礼申し上げます。

今年の冬は、昨年と異なり寒さが厳しいですが、考えようでは部屋に閉じこもって論文を書くのには絶好の時期と思われれます(欧米では冬には南の暖かい地方に移動することも多いと聞きますが)。最近、勤務医の重労働や認識の変化か、論文作成への意欲の薄れが指摘されます。確かに、学位論文を含めて、論文作成はめしの種にはならないかもしれませんが、医師の本分は、診療、教育と研究であると先輩から教わり(それぞれのウエイトは個々で違うと思いますが)、論文にまとめることが、1つの目標であります。古今、そのような積み重ねが、医療の進歩につながってきたことは明白であります。しかし、豊かな日本では、医師もやはり、重労働であるより楽しい医療を求めたがるのは当たり前であり、医療の進歩のためのガッツなどは失せやすいのでしょう。医師不足とされますが、医師の気力低下も関係していると思います。

では、どうすれば、医師のモチベーションを保てるかと考えると、やはり日本という国民性から考えると医療・医師間

の競争意識を高めるのが一番と思います。一生懸命、診療や手術で高い技術を獲得したものや、多くの優秀な論文を発表した場合には、もっと目に見える褒美(収入とポジション)が必要です(もちろん、日本の限られた医療費の問題はあるのですが)。アメリカでは、日本とは異なり耳鼻咽喉科医のスペシャリティは、脳外科医について高く、当然、収入面でもかなり恵まれています。したがって、社会的なポジションを得るため医師の競争が大変となります。なにもアメリカを学ぶ必要はありませんが、豊かな環境下に育った若い勤務医の目をギラツカせる美味しいニンジンが必要です。医療の世界では、医師間の正当な格差が生じた方が望ましいのかもしれませんが。

一方、医学部入試は加熱をしており、多くの若者が医師をめざそうとしています。医師国家試験に合格し、社会に貢献できる医師となるためには、非常に多くの努力が必要であり、そのための気力を維持させる早急な手だてが今求められていると思います。

幸いにも本号は多くの原稿があり、私の心配事は若干薄らいだ様な気がします。今後も多くの投稿を期待しております。
(春名眞一)

2008年3月20日印刷

第35巻 第1号

2008年3月25日発行

編集発行人

獨協医学会

寺 野

彰

発行所

獨協医学会

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地

獨協医科大学

Tel (0282) 86-1111 (内線2009)

製 作

教 文 堂

〒162-0804 東京都新宿区中里町27

Tel (03) 3260-6136